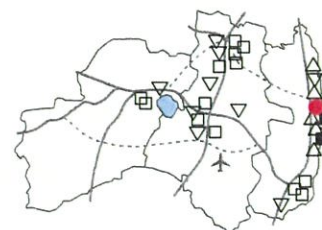


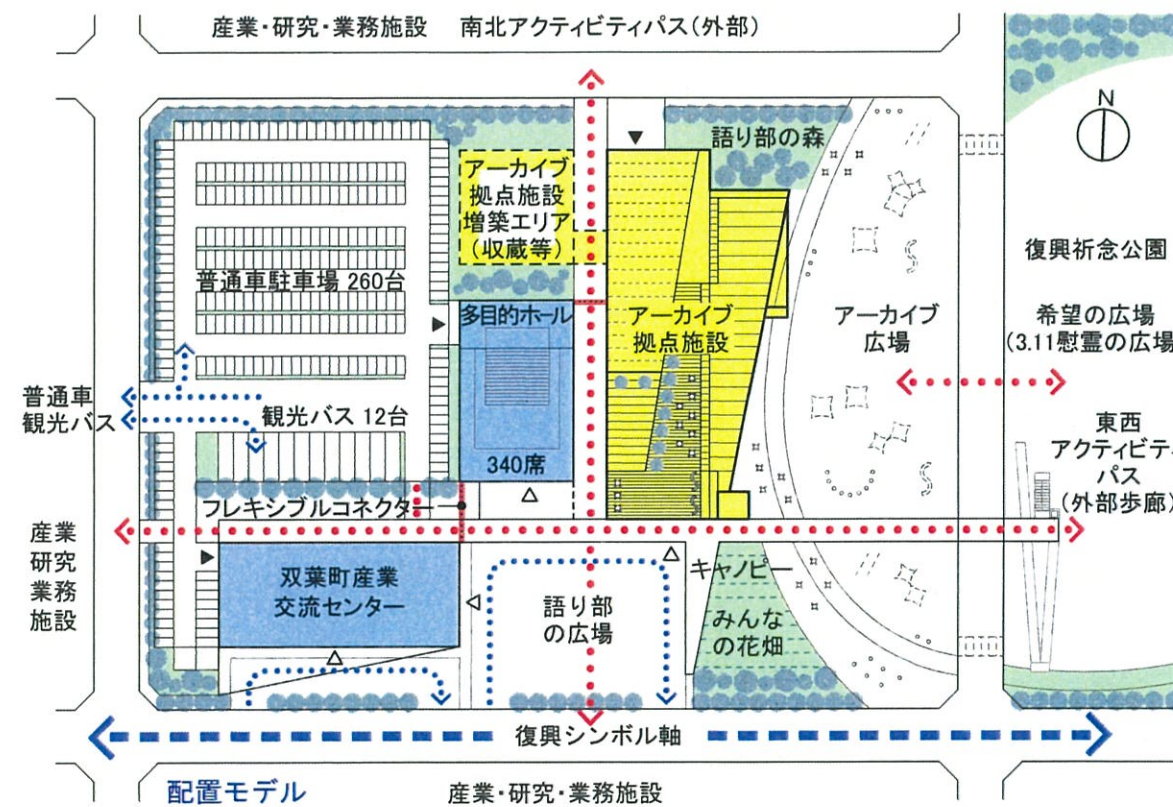
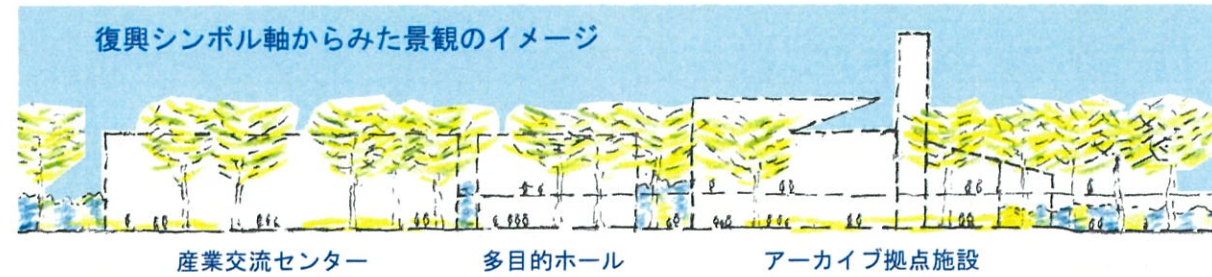
1. 復興の拠点としてのアーカイブ拠点施設等の配置のあり方について

- ① 復興祈念公園と一体感のある敷地整備
復興祈念公園側にアーカイブ広場を設け、一体感のある整備とします。追悼行事では積極的に連携します。
- ② 復興シンボル軸と復興祈念公園をつなぐアーカイブ拠点施設
復興祈念公園に長く顔を見せ、復興シンボル軸道路から公園へと導くような表情を持たせます。
- ③ 産業交流センターは、復興シンボル軸の導入部に顔を見せる復興シンボル軸に対して沿道型で、産業交流センターが長く顔を見せます。公園からも確認しやすく、産業・研究・業務施設から使いやすい位置に配置します。
- ④ アーカイブ拠点施設と産業交流センターの中心に位置する多目的ホール
将来配置する多目的ホールは、アーカイブ拠点施設と産業交流センターから近い位置に設定し、3つの建物は連続的・有機的に機能します。双葉町の産業交流センターと多目的ホールは、一体的なまとまりで管理できるようにします。
- ⑤ 緑化した北面の共用駐車場
3施設の共用駐車場は、北面に分かりやすくまとめ、アクティビティパスから建物へのアクセスを容易にします。緑化舗装材の使用、福島県の木・花、双葉町の木・花を中心に植樹し、地域環境に配慮したランドスケープとします。
- ⑥ 東西・南北のアクティビティパス
復興祈念公園、アーカイブ拠点施設および産業交流センター、多目的ホールと駐車場を結ぶ東西・南北アクティビティパスを設け、積極的につながりをつくります。
- ⑦ デザインコードの共有
3つの建物が共有するサイン計画、外構の素材、アクティビティパスの取扱いなど共通のデザインコードを協議します。敷地内の景観要素を、統一感のあるものにします。
- ⑧ 各施設は独自の工程で施工可能とする
アーカイブ拠点施設と産業交流センターと駐車場は、ほぼ同時に完成すると予想されます。多目的ホールは、将来構想になっております。中長期的には、アーカイブ拠点施設の収蔵スペース等の増築も予想されます。先に完成したスペースの内外の機能や景観を損なうことなく、次の工事ができるように配置のマスタープランをつくります。
- ⑨ 福島イノベーション・コースト構想と県内各拠点をつなぐネットワーク
アーカイブ拠点施設が中心となり、「人」・「知」・「隣」・「場」をつなぐことで回遊性を生み出し、福島の復興拠点と情報・交流のネットワークを育みます。



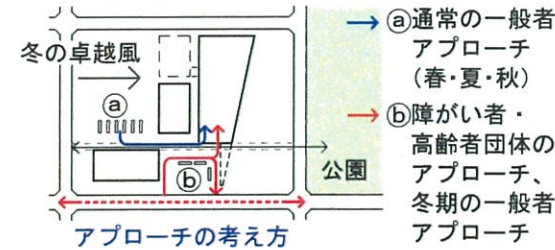
福島の復興拠点ネットワーク

- アーカイブ拠点施設
- 福島第一・第二原子力発電所
- △ イノベーション・コースト構想関連施設
- 大学等・研究施設
- ▽ その他復興関連施設



⑩ 冬の西風を避けるアプローチ

アーカイブ拠点施設、産業交流センターおよび多目的ホールは、冬の西風を避けて主玄関に入ることができ、語り部の広場を多目的に利用します。

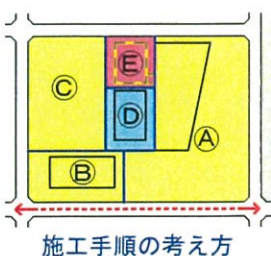


- ①アーカイブ拠点施設 ②産業交流センター ③共用駐車場
④多目的ホール ⑤アーカイブ増築エリア(収蔵等)

ステップ1: ①、②、③はほぼ同時期の竣工を目指す

ステップ2: ④の多目的ホールは①～③を使いながら単独施工

ステップ3: ⑤の収蔵等の増築は①～④を使いながら独立施工



⑪ 人の交流を育む建築

一般の利用者、語り部、研究者は、変化に富んだスペースで多様なプログラムの展開の中で新鮮な出会いが生まれます。

⑫ みんなでつくるランドスケープ

駐車場廻りは、外構の竣工までに緑化します。その他の植樹については、団体には木を、来館者には花を植えていただき、長い時間をかけて緑化し、南東のみんなの花畑は、東日本大震災で亡くなられた方を偲ぶ場所になります。

2. 複合災害の記憶を未来へ継承するための建築物としてのあるべき姿について

① 人の動きや集う様子が「見える化」される建築

この建物を訪れる人の集う姿や、移動する様子や、部屋の中の活動がいきいきと透過して見える建築をつくります。開放感が得られ、各室の活動を分かりやすく伝えます。

② 動線と機能が分かちがたく結びつく建築

各室と水平動線が直接かつ長く接することによって、動線と各種機能が融合しやすく、人の動きが活性化します。

③ 上下階の一体化

今回の複合災害の資料は、唯一無二のものであり、万が一を考え、主たる収蔵・展示を2階に計画します。最短で移動するシースルーエレベーターやゆったりとした階段は、吹抜を介して、上下階は密接に、かつ有機的につながります。

④ 内部空間と外部空間の連続

東側はホールの吹抜に面し、復興祈念公園と一体化したアーカイブ広場、ワークショップテラスを設け、内外空間が溶け合う構成にします。南側も、アクティビティパスが各棟の内部空間を連続的につなげ、賑わいを演出します。

⑤ 将来遺構となる原子力発電所方向への視座を持つ

将来遺構となると予想される福島第一原子力発電所方向へ、アーカイブ拠点施設に角度線を持たせ、意識を高めます。さらに、シースルーエレベーター等を塔状にデザインし、海と発電所に対して鎮魂の思いを捧げます。

⑥ 復興祈念公園の行事と連携する建築

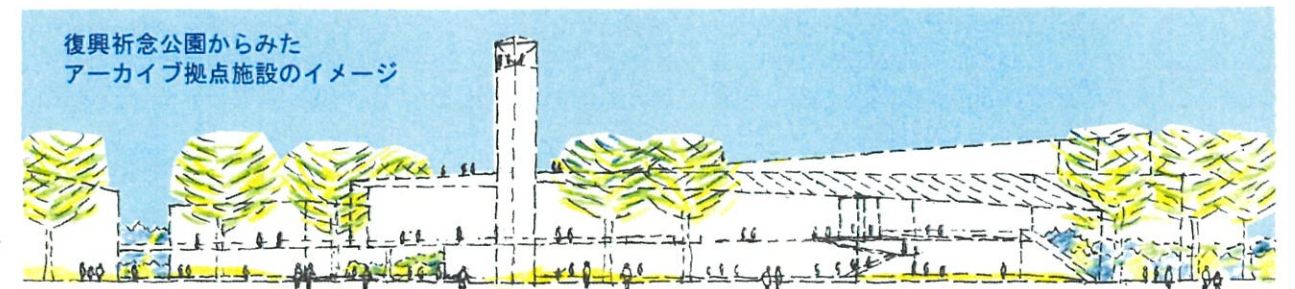
復興祈念公園では、東日本大震災の慰霊祭など、大規模な集会等も予想されます。アーカイブ広場・2階のギャラリー・語り部のテラスなど、ひな壇状に行事に参加し、公園から見ると人の姿が重層して見え、未来への思いを新たにします。

⑦ 開放感あふれる建築

これまでの展示施設は、境界性の高い建築が多く、利用者にとって居心地が良い空間が少なかったようです。建物に入ると、奥の空間に興味を持てるように刺激し、さらに上の階に行ってみたくするような空間の広がりをつくります。

⑧ 五感に触れる建築

建物のエントランスホールの奥には、半外部のワークショップテラスをつくります。木質構造の大屋根の下では、複合災害についての様々なワークショップやグループ製作が行なわれ、その成果が展示され2階の海のテラスと重層させます。



3. 施設利用形態の変化に対応した施設整備と各エリアの連携 及びセキュリティを考慮した利用動線のあり方について

① 明快な動線計画

来館者の主動線を南側に設定し、北側に搬入・職員入口等のサービス動線を設定します。管理エリアの南北に活動しやすく見通しのよいピロティを設けることによって、主玄関と通用口・搬入口の距離を短縮し、管理しやすく、セキュリティを高めながら、多様なアクティビティが展開されます。

② アクティビティパスからの侵入を防ぐフレキシブルコネクター

東西と南北のアクティビティパスは大型シャッターや鋼製建具にて開閉し、夜間や休館時に不審者の侵入を防ぎ、その他防犯カメラのネットワーク・集中管理を構築します。

③ 様々な利用形態に対応する連続空間

アーカイブ広場、半外部ワークショップテラス・研修・会議室、そして吹抜を介して、2階の展示・収蔵ギャラリーなどが連続的につながり、様々な利用形態に対応します。

④ 移動空間の多様性

エントランスホールを中心とした水平移動や階段やエレベーターなどの垂直動線は、セキュリティの点でも、内・外部からの視認性を高め、アクティビティを活性化させます。

⑤ 浮き床システムと適切な階高の設定

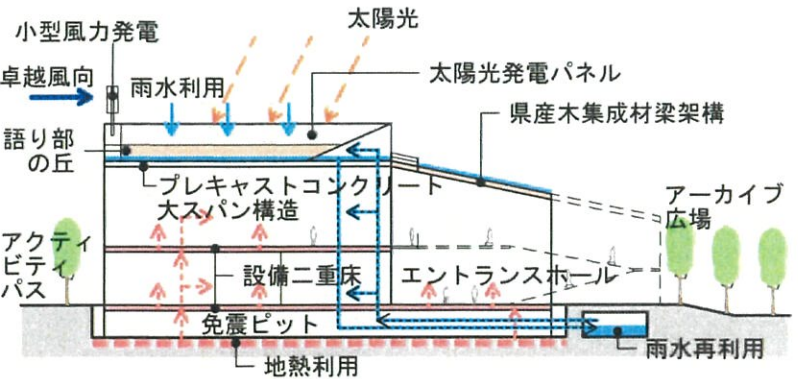
階高をとり、設備方式の変化に耐えるようにします。二重の浮き床システムを採用し、設備の変化に柔軟に対応します。

⑥ 機能変化に対応する可動家具や可動間仕切り

可動家具やスライディングパネルなどを用い、様々な機能変化に対応します。一方でワンルームの見通しも可能にし、セキュリティを高め、大きな空間の中に場所性をつくります。

⑦ フレキシブルな空間に対応する構造計画

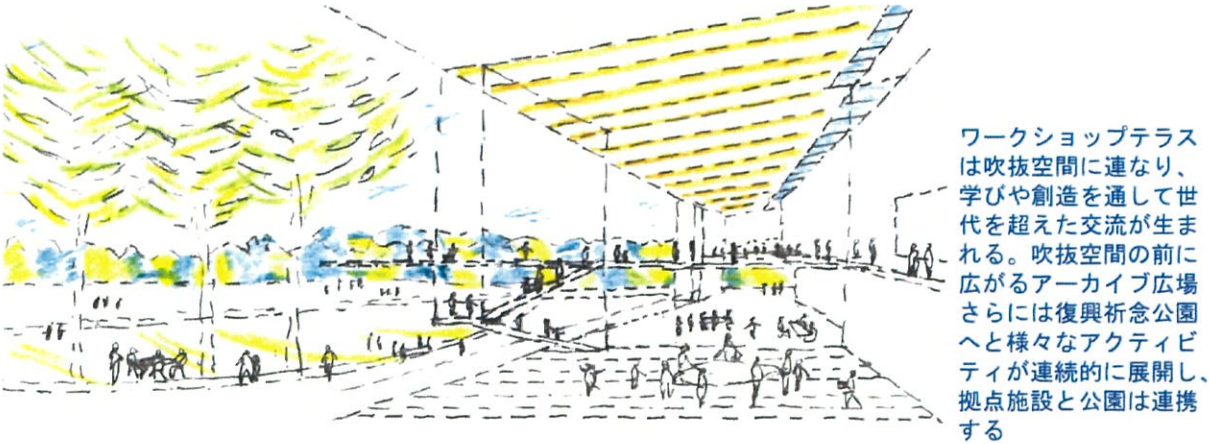
展示室や収蔵庫があるメインの構造は、免震装置を用いながら、大スパンの工場製作のプレキャストコンクリート構造で計画します。東側ルーフは福島県産大断面集成材を用い、組み立てます。現場での型枠・鉄筋工事を最小限にし、CO2を削減しながら、工期短縮を目指します。



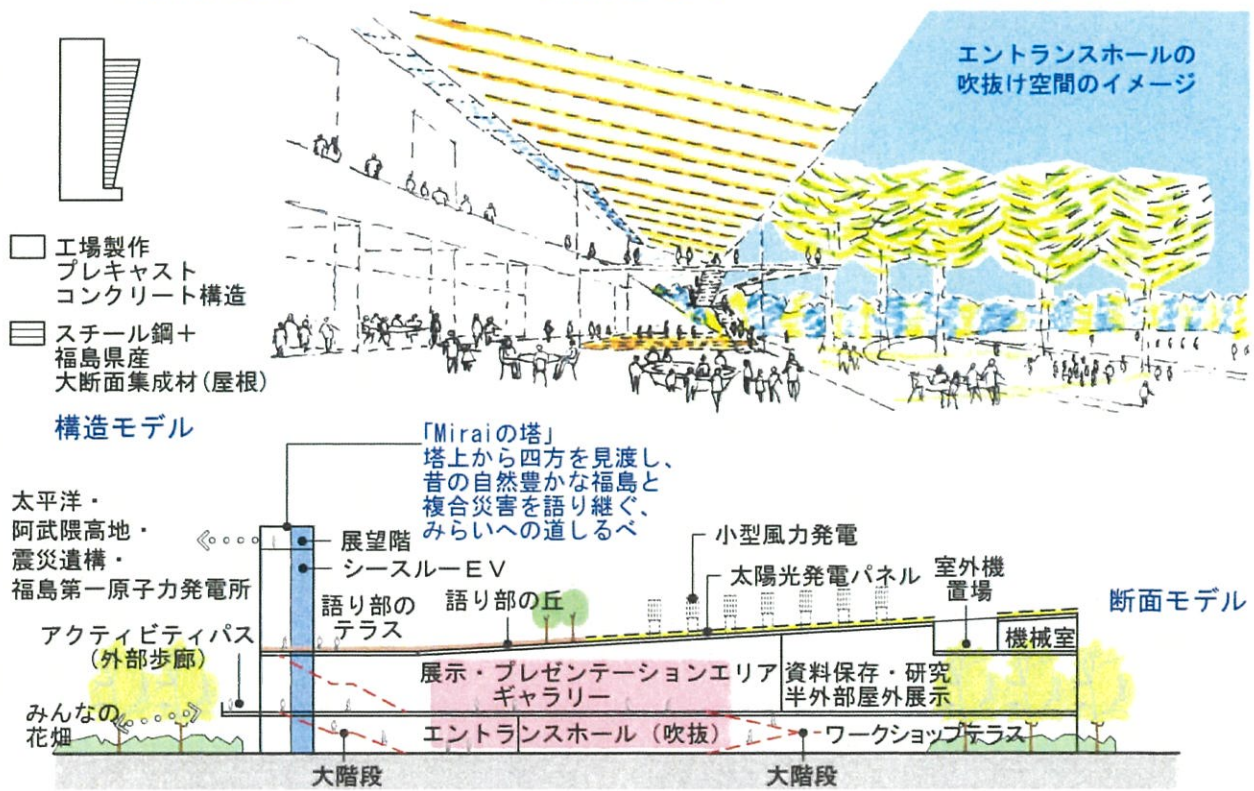
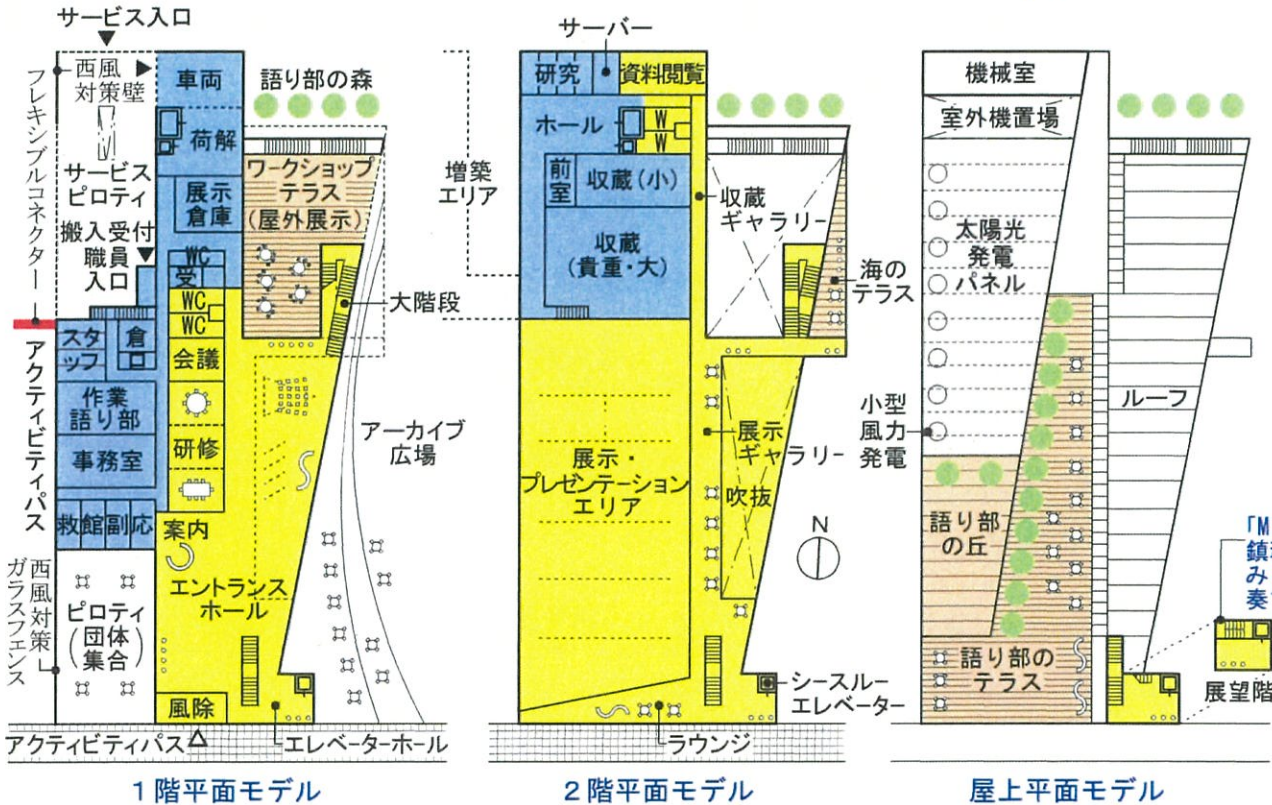
構造と設備・環境の断面モデル

⑧ 再生可能エネルギーとエネルギー制御の利用

建築では、外断熱やペアガラスを採用します。地熱エネルギー・太陽光発電・風力発電の利用など、再生可能エネルギーを活用します。場所に応じて、きめ細かく系統分けや制御を計画し、ゼロ・エネルギーを目指した設備計画とします。



ワークショップテラスは吹抜空間に連なり、学びや創造を通して世代を超えた交流が生まれる。吹抜空間の前に広がるアーカイブ広場さらには復興祈念公園へと様々なアクティビティが連続的に展開し、拠点施設と公園は連携する



4. 保存資料の多様性を踏まえた新たな 資料保存エリアのあり方について

※印の欄は、記入しないでください

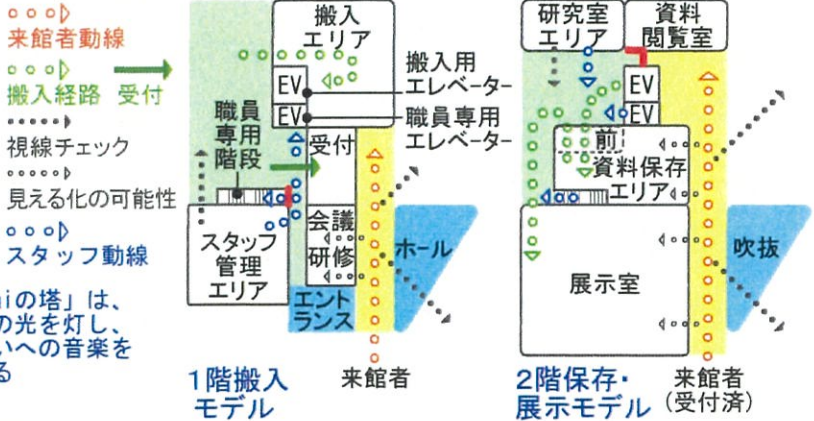
受付番号
※ 1

① 資料保存エリアの安全性

資料保存エリアは2階とし、収蔵庫への搬出入は前室を経由して行い、一元的に管理します。電源は屋上階に設置し、万が一の津波襲来に備え、資料・コンピューターの浸水被害、電源喪失によるデータの消滅を回避します。また、エリアへの人の出入りについては施錠・監視モニターに頼るだけでなく、職員の視線が行き届きやすい配置とします。

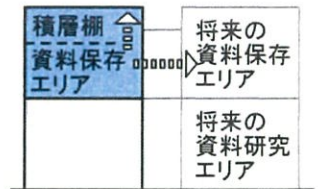
② 展示空間と資料保存エリアの一体性

展示空間と資料保存エリアは近接した同一フロアに設け、スムーズな展示物の入れ替えを可能にします。またこのエリアに近接し、資料閲覧室・研究室を配置し、研究員と来館者・来訪する研究者との交流を図ります。研究室エリアは、資料保存エリアに面し、スタッフも専用エレベーター・階段で上下移動します。



③ 資料保存エリアの拡張性

復興の加速、廃炉の進行とともに保存資料も増大します。特に実物資料の増加に対応し、収蔵庫は高天井とし、設計段階で床荷重の安全率を見込み、保管棚を積層化できるものとし、さらに近接し、連続的使用可能な位置に増築エリアを設定します。



資料保存エリアの拡張性

④ 収蔵庫の見える化

収蔵庫に沿って収蔵ギャラリーを設置します。来館者は資料閲覧室への途中、窓から中の様子を学習することができます。窓のガラスは合わせガラスとします。紫外線による保存資料の劣化を抑えるとともに防犯ガラスの機能も果たします。

⑤ 県産杉材の活用による収蔵庫

収蔵庫の壁は間に空気層をとった二重壁とします。内側の壁は調湿性に優れた県産杉材を用います。中間の空気層を空調し、間接的に温湿度を調整します。

⑥ 多様な保存資料に対応した保存環境整備

紙資料を含む実物資料の保存は、建築的处理と最小限の空調設備による適切な温度・湿度環境のもとで行い、経年劣化を抑えます。デジタル資料を保存・提供するサーバー室は各所の温度監視により効率的空調を実現します。また運用を止めることなく、空調機の修理交換・増設ができるものとし、